

和風建築を極める —数寄屋の伝統と聚楽壁の実演—

長野県建設労連では、伝統技能を次世代へ継承するため、県や内外関係者とタイアップし、中堅大工を対象とした「信州職人学校・伝統大工コース」を2009年より開講しました。

このコースは、信州の歴史と風土をふまえ、建築大工として伝統的技量の向上を図るとともに、現代の多様なニーズの中で新たな仕事分野を開拓しうる能力の育成をめざすもので、毎週土曜日、半年間の訓練を行ないます。経験に応じ「基礎コース」と「応用コース」を設け、昨年は基礎コース、今年は応用コースを開講中です。各コース修了者には、県認定の「信州伝統大工技能評価試験」により、合格者に「信州伝統大工」（1級、2級）の称号が授与されます。

この公開講座は、受講生の座学を兼ねて、通常の授業では盛り込めない内容をテーマに一般市民も参加できるオープンセミナーとして、定期的を開催しています。

今回は、京都から、数寄屋・和風建築の第一人者である中村昌生先生と京壁名人の杉森氏をお招きし、「和風建築」をテーマに講演と聚楽壁（京壁）の実演を行っていただきます。

めったに聞けない・見られない貴重な機会と思いますので、伝統建築に関心をお持ちの若手・中堅職人、設計者、事業主、学生、市民など、多くの方のふるってのご参加をお待ちしています。

- 日 時：2010年10月2日（土）13：00～17：00
- 会 場：長野県松本技術専門校／ふれあい技能センター（松本市寿北7-16-1）
- 受講料：組合員2,000円、組合員以外3,000円
- 定 員：90名（定員になり次第締切）

第一部 講演『数寄屋の伝統が今日の〈和風〉—その形と技と心』

中村 昌生 氏（京都工芸繊維大学・名誉教授、(財)京都伝統建築技術協会・理事長、伝統を未来につなげる会・会長、工学博士）

多年にわたり、茶室・数寄屋の研究と創作を通して、木造建築の伝統の継承と発展に努めて来られた中村先生に、自然との共生、「庭屋一如（ていおくいちにょ）」（外部と内部の一体化）を旨とする和風建築の美学、現代との融合、それを支える建築職人の技などについて、多くのスライドや映像をまじえてお話いただきます。



〔1927（昭和2）年名古屋市生まれ。京都工芸繊維大学名誉教授、福井工業大学名誉教授。現・(財)京都伝統建築技術協会理事長、日本建築専門学校理事長。2010年伝統を未来につなげる会の会長に就任。〕

文化財保護審議会／専門委員、桂離宮／整備委員、国立京都迎賓館／建設委員・伝統技能活用検討委員会委員長などを歴任し、文化財建造物の修復保存等にも貢献。

日本建築学会賞（1971）、日本芸術院賞（1991）、圓山文化賞、京都市文化功労者（1998）、京都府文化賞特別功労賞（2006）などを受賞。

主な作品に、大濠公園日本庭園「茶会館」（福岡市、1984）、「山寺芭蕉記念館」（山形市、1988）、白鳥公園「清羽亭」（名古屋、1990）、駿府公園「雲海・静月庵」（静岡市、2001）、ほか。

主な著書に、「茶の建築」(河原書店、1968)、「茶匠と建築」(鹿島出版会、1973)、「数寄屋古典集成(全5巻)」(小学館、1973)、「数寄屋建築集成(全9巻)」(小学館、1983)、「数寄屋邸宅集成/普及版(全4巻)」(毎日新聞社、1988)、「日本の匠/63人の棟梁と語る」(学生出版社、1995)、「図説・茶室の歴史/基礎がわかるQ&A」(淡交社、1998)、「古典に学ぶ茶室の設計」(エクスナレッジ、1999)、「茶室を読む/茶匠の工夫と創造」(淡交社、2002)、「数寄屋と五十年」(淡交社、2007)、「茶室集成」(淡交社、2008)、ほか多数。

作品集に、「茶苑の意匠/中村昌生・数寄屋20集」(毎日新聞社、1983)、「現代の数寄屋/公共施設集」(毎日新聞社、1990)、「公共茶室/中村昌生の仕事」(建築資料研究社、1994)、「数寄の空間/中村昌生の仕事」(淡交社、2000)、ほか。]



▲大濠公園「茶会館」



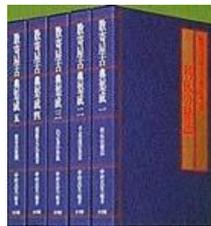
▲「山寺芭蕉記念館」



▲白鳥公園「清羽亭」



▲駿府公園「雲海・静月庵」



▲数寄屋古典集成



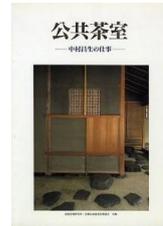
▲日本の匠



▲図説茶室の歴史



▲古典に学ぶ茶室の設計



▲公共茶室



▲数寄の空間

第二部 実演「聚楽壁(京壁)の実演」

杉森 義信 氏 (京左官研究所・所長、(財)京都伝統建築技術協会・会員)

中村先生とともに仕事をして来られたこだわり左官職人の杉森氏に、京都から材料・道具等を持ち込んでいただき、実際の聚楽壁の左官実演を行っていただきます。

杉森氏は、1994年第1回日本伝統文化奨励賞(財)日本文化芸術財団)を、野村萬斎氏(狂言師)とともに受賞されています。

※「聚楽壁」は、日本の伝統的な土壁のひとつで、左官仕上げの一種として、茶室その他に広く用いられてきた。豊臣秀吉が京都に建てた聚楽第付近で産出された土が聚楽土と呼ばれ、その土を用いたことからこの名がついたといわれる。黄褐色の壁土にわずかに黒点や錆が出ている。聚楽土に、すさ、砂、水などを混ぜて施工される。耐火性に優れ、年月を経過しても変わらない、あたたかみのある独特の風合いが好まれる。

- 申込方法：別紙申込用紙に必要事項を記入の上、9月28日(火)までにFAXにてお申込下さい。受講料は、組合員の場合は申込締切日までに所属組合へ納入して下さい。組合員以外の方は、公開講座当日に受付でお支払い下さい。
- 主催(申込・問合せ)：長野県建設労連 伝統建築技能継承事業運営委員会
〒390-0864 松本市宮渕本村1-2 建労会館内 長野県建設労働組合連合会
担当 宮川・吉田 TEL 0263(39)7200 FAX 0263(39)7202

FAX 0263-39-7202

長野県建設労働組合連合会／伝統建築技能継承事業運営委員会宛
担当／宮川、吉田

信州職人学校第10回公開講座 受講申込用紙

今回のテーマ／和風建築を極める

◆講師1：中村昌生氏【京都工芸繊維大学名誉教授】

演題：『数寄屋の伝統が今日の〈和風〉』

◆講師2：杉森義信氏【京左官研究所所長】

演題：『聚楽壁の実演』

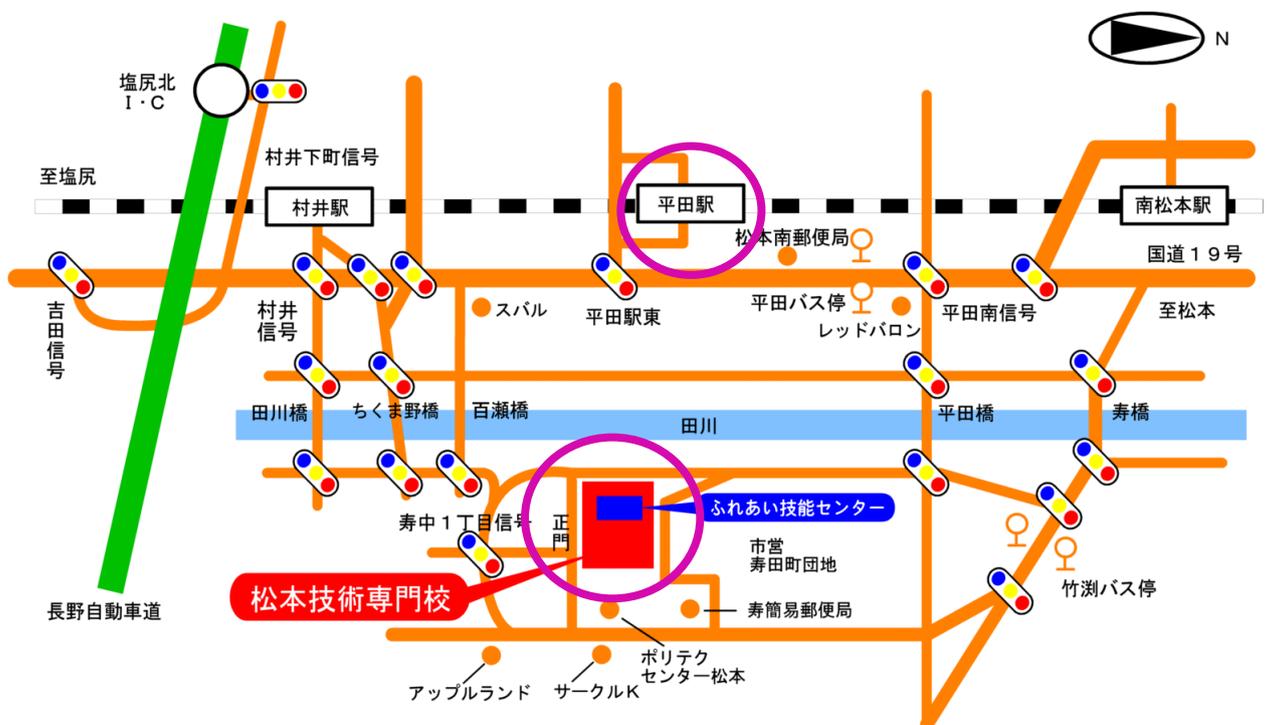
■開 講：2010年10月2日（土） 午後1時～午後5時

■会 場：長野県松本技術専門校／ふれあい技能センター（松本市寿北7-16-1）

■受講料：組合員2,000円、組合員以外3,000円

申込者氏名		
組合名 <small>※組合に所属し ていれば記入</small>		
連絡先	事業所名	
	住所	〒
	TEL	
	FAX	
	E-mail	
要望など		

長野県松本技術専門校 案内図



- ・長野自動車道 塩尻北I・Cより4.0km 自動車で10分
- ・JR平田駅より1.6km 徒歩20分
- ・JR松本駅から平田駅まで普通列車で約10分。平田駅よりタクシー約10分。
駅前にタクシーの待機がないので、下記タクシーを呼び出す。信州名鉄交通 TEL 0263-27-4444、他